

「学校と地域をむすぶ」～東山田コミュニティハウスの試み～

横浜市立東山田中学校コミュニティハウス館長 竹原和泉氏

【日 時】平成20年3月4日(火)10時～12時

【場 所】アートフォーラムあざみ野セミナールーム3

【主 催】あおば学校支援ネットワーク

東山田中学校コミュニティハウス竹原和泉館長をお招きして、学校と地域をむすぶと題して、東山田中学校コミュニティハウス開設以来これまでの試みを中心にご講演頂きました。既存の概念にとらわれないコミュニティハウスの可能性を驚きとともに聞かせて頂きました。「敷居を低くする。入りやすくする」という言葉の中には、ハード面だけではなく、ソフト面でも、竹原さんを中心としたコミュニティハウスの方たちが、そのような雰囲気を作り上げている、子どもと大人と一緒に集い、学び合うための工夫をされていることがよくわかりました。お話の中で紹介された、コミュニティカレンダー（中学校区の学校や地域の一年の行事や学校に関する情報が一つにまとめられたカレンダー）は、参加者の中からもぜひ作ってみたいという声もあがるほど、情報の共有とい



う意味だけではなく、地域と学校が連携するツールとしても便利なものだと感じました。

最後にコーディネーターのヒントとして、日常の情報共有、コミュニケーション力の大切さを指摘されました。「会議をしたことがありません」という言葉に参加者も驚いていましたが、「雑談の中から信頼へ」と発展していくという、まさにコーディネートを実践されている竹原さんならではの言葉のような気がしました。また、「小さな成功体験を積み重ねることで連携が深まる」という指摘には、どうしても大きなイベントを計画しがちな学校支援活動を見ると、日常のちょっとしたことの積み重ねの大切さを感じました。

コーディネーターに求められる資質や知識の大切さを改めて認識しただけでなく、学校と地域をむすぶことによって生まれる多くの可能性を感じる事が出来た貴重なお話でした。

(文責 倉岡正高)